

中国をはじめ新興国の旺盛な需要を牽引役に再成長する

熱可塑性エラストマーと合成ゴム主要28品目の世界市場を調査

2015年世界需要予測(2010年比)

合成ゴム(12品目) 1,510万トン(133%) 5兆5,753億円(135%)  
 熱可塑性エラストマー(16品目) 397万トン(128%) 1兆8,747億円(135%)

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、2011年の4～6月にかけて、08年以降の世界の熱可塑性エラストマーと合成ゴムの需要動向を明らかにする調査を行なった。

世界の市場規模推移や日本の市場規模推移、日本、アジア、欧米などの地域ごと用途別の需要、参入メーカーの生産動向や販売動向、また価格動向、技術開発動向、他の材料との競合状況、流通構造を明らかにした。

今回は、熱可塑性エラストマー16種と、競合あるいは棲み分け関係の合成ゴム12種について、その調査結果を報告書「2011年 高機能エラストマー&コンパウンドのグローバル展開」にまとめた。

熱可塑性エラストマーと合成ゴムは、自動車を中心に電機、建築・土木資材、日用品、医療器具などあらゆる製品分野で用いられ、世界経済の成長とともに拡大してきた。リーマンショックに端を発した世界的な不況により09年にかけて需要が大幅に減退したが、新興国の旺盛な需要、日本や欧米でも景気刺激策や前年の反動により自動車や電機製品を中心に回復し、10年には08年の需要水準を上回った。今後は各種産業の生産拠点集積や経済成長とともに需要が拡大する中国をはじめアジアの新興国が市場を牽引すると予測する。

またCO<sub>2</sub>排出による地球温暖化や世界経済の成長に伴う資源の枯渇問題から、省エネや省資源製品が求められ、自動車の低燃費タイヤ用S-SBRや、リサイクル性に優れた熱可塑性エラストマーのニーズが高まっている。

< 調査結果の概要 >

世界市場

(単位:万トン 億円 %)

		08年実績	10年実績	15年予測	15/10年比
熱可塑性エラストマー	数量	293	309	397	128
	金額	13,325	13,884	18,747	135
合成ゴム	数量	1,065	1,136	1,510	133
	金額	36,989	41,412	55,753	135

08年のリーマンショックから、まず新興国を中心に各種産業が回復し始め、10年には日本や欧米でも回復に転じて販売も08年を上回る規模となった。中国やインド、東南アジアなどアジアの新興国の旺盛な需要が牽引し、11年以降もこの需要は堅調に増加する見通しである。

この最大の利用先市場は自動車業界であり、10年の世界数量実績の52%を占めた。また自動車向けの主要品目は、スチレンブタジエンゴム、ポリブタジエンゴムの2種で10年の世界自動車分野向け供給実績の約70%を占めた。スチレン・ブタジエン・スチレンブロックコポリマーは、土木分野で最も多く使用され、10年の世界供給実績の約62%がアスファルト改質に利用された。

熱可塑性エラストマー(16種)は10年から15年に向けて数量ベースで年平均5%、金額ベースでも年平均6%の成長と予測する。

各製造業の生産拠点が集積し、経済成長による内需拡大が続いている中国を中心にアジア地域に旺盛な需要があり、スチレン系エラストマーやオレフィン系エラストマー、ウレタン系エラストマーなども中国や東南アジアで生産増強が計画されている。

合成ゴム(12種)はタイヤをはじめチューブやホース、ガスケット、シール材など自動車分野での需要が多く、中国で09年も自動車の生産拡大が続き合成ゴムの需要を支えた。中国などでの旺盛な需要に合成ゴムの生産が追いつかず需給がひっ迫して09年の販売数量は微減となった。ただ各種合成ゴムの供給能力が増強されており、11年以降も15年に向けて中国をはじめ新興国の需要が牽引し年平均6%の市場拡大が続くと予測する。

#### <注目される個別市場>

スチレンブタジエンゴム(SBR 重合方式によりE-SBRとS-SBRに分かれる)

10年480万トン(前年比107%) 15年予測674万トン(10年比140%)

10年1兆4,400億円(前年比110%) 15年予測2兆752億円(10年比144%)

10年のSBRの世界市場は、480万トン、1兆4,400億円となった。自動車の生産に連動して新車用や交換用需要が拡大している。リーマンショック後、中国でのSBR需要の回復が早く、09年には前年比で約3%増加した。燃費規制が世界的に高まるなか、S-SBRが省燃費タイヤ向け需要を拡大しており、需給がひっ迫している。

11年以降、世界市場の25%、27%を占めるアメリカやヨーロッパでも需要が回復し、S-SBRの需要の拡大が継続し、年率7%程度で15年に向けて拡大すると予測する。

中国やその他アジアでは、日本や欧米からのタイヤメーカーの生産シフトによってSBR生産が拡大し続けている。インドでも自動車需要の増加から急速にSBR需要が高まっている。インドだけで10年に10~12万トンと見られる。

ヨーロッパでは、12年から省燃費タイヤのラベリング制度が始まるとS-SBR需要が高まり、制度基準に合わせたSBRの開発が課題となる。合成ゴムメーカーは低燃費をはじめ低騒音、軽量化、長寿命化、走行安定性や制動性の向上など自動車用タイヤの高性能化に応じた材料の開発が求められ、それぞれのニーズに応じたきめ細かな対応を要する。S-SBRの需要が世界的に増大する見通しから、日系のSBRメーカーのJSR、日本ゼオン、旭化成ケミカルズなどは相次いでアジアでのS-SBRプラントの新增設計画を打ち出しており、アジアでSBR生産が拡大していく。

ポリブタジエンゴム(BR)

10年285万トン(前年比106%) 15年予測380万トン(10年比133%)

10年9,070億円(前年比109%) 15年予測1兆2,460億円(10年比137%)

10年の世界市場は前年比6%増加した。11年以降も年率6%程度で拡大していくと予測する。中国、アジア、東欧で自動車の需要が拡大しており、それに伴って新車用、交換用のタイヤ需要が拡大し、タイヤ向けに採用されるBR需要も拡大する見通しである。また低燃費タイヤの需要拡大により、特に日本や欧米などで耐摩耗性や低温特性に優れたハイシスタイプタイヤの需要が拡大する見通しである。

世界市場ではランクセス(ドイツ)がトップシェアを占めるが、中国系メーカーSINOPEC、中国石油集団との差は急速に縮まっている。宇部興産は高い技術開発力を持ち、千葉工場、中国、またタイでも15年に向けてBR生産能力の増強とを計画している。

スチレン・ブタジエン・スチレン・ブロックコポリマー(SBS)

10年110万トン(前年比104%) 15年予測126万トン(10年比115%)

10年2,530億円(前年比103%) 15年予測3,200億円(10年比126%)

SBSは、常温で優れた弾性を持ち、成形加工も容易という特長を持つ。アスファルト改質、PS(ポリスチレン)樹脂改質、鞋底材料として広く世界に普及している。

08年から09年にかけて日本や欧米などでは需要が減少した。一方、オリンピックや万博の開催を控え道路整備などの大型公共工事が進められていた中国ではアスファルト改質向けの需要が旺盛で、同地域の需要が牽引する形で世界の販売量は増加した。中国の旺盛な需要に応じて、台湾や韓国のSBSメーカーが生産を拡大している。

11年以降も中国を中心にアジア地域の需要が市場を牽引していくと予測される。ただアジア地域ではコストダウンが必要であり、大口の低価格品と小口の付加価値品の二極化が進む傾向にある。

クレイトンポリマー(アメリカ)はプラスチックなど高分子製品の世界最大手メーカーで、「クレイトン」は世界的に知名度が高い。生産面、販売面において徹底した合理化を図っており汎用的な低価格品の販売を避ける傾向にあることから、台湾や韓国のメーカーがシェアを高めている。日本では、旭化成ケミカルズのSBSの商品化が早く、アスファルト改質及びPS改質用途でトップシェアを占めている。

- オレフィンコポリマー

10年45万トン(前年比118%) 15年予測66万トン(10年比147%)

10年2,000億円(前年比116%) 15年予測2,900億円(10年比145%)

バンパー、インパネなど自動車向けPP(ポリプロピレン樹脂)改質用の需要が約70%を占める。ゴムに似た特性を有しながら成形材料として熱可塑性樹脂と同様に使用でき、またオレフィン系樹脂との相溶性も良く耐衝撃性などを改善する改質材として使用される。

09年後半から中国をはじめ新興国の需要が急回復し、10年の販売量は前年を大きく上回った。今後も中国を中心としたアジア地域において旺盛な需要が期待でき、現在シンガポールで年産20万トンの生産能力を有する三井化学に加え、ダウ・ケミカルやエクソンモービルもアジアでの生産を開始する。中国をはじめとしたアジア市場が牽引してこの販売は順調に拡大していく見通しである。

- オレフィンコポリマー大手のダウ・ケミカルなどが事業展開しているヨーロッパやアメリカでの需要比率が高い。また近年自動車の生産台数が急激に拡大している中国の需要が大幅に伸びている。また中国では包装資材や建築資材、電線被覆、日用雑貨向けなど幅広い用途で需要が伸びており、今後も大幅な拡大が見込まれる。東南アジアやインドなどでも自動車向けをはじめ幅広い用途で需要拡大が予測される。これに備えて、三井化学に次いでダウ・ケミカルやエクソンモービルもアジア地域での大規模な能力増強を予定している。

以上

<調査の概要>

調査対象

1.熱可塑性エラストマー 16種類

- 1.スチレン・ブタジエン・スチレンブロックコポリマー(SBS)
- 2.スチレン・イソプレン・スチレンブロックコポリマー(SIS)
- 3.水添スチレン系エラストマー(水添TPSニートポリマー)
- 4.水添スチレン系エラストマーコンパウンド(水添TPSコンパウンド)
- 5.単純ブレンド型オレフィン系エラストマー(s-TPO)
- 6.架橋型オレフィン系エラストマー(架橋型TPO)
- 7.重合型オレフィン系エラストマー(RTPO)
- 8.塩ビ系エラストマー(TPVC)
- 9.塩素化ポリエチレン系エラストマー(CPE)
- 10.シンジオタクチック1,2-ポリブタジエン(RB)
- 11.ウレタン系熱可塑性エラストマー(TPU)
- 12.ポリエステル系エラストマー(TPC)
- 13.ポリアミド系エラストマー(TPAE)
- 14.-オレフィンコポリマー
- 15.アクリル系エラストマー
- 16.MNCS熱可塑性エラストマー(MNCS)

2.合成ゴム 12種類

- 1.スチレンブタジエンゴム(SBR)
- 2.ポリブタジエンゴム(BR)
- 3.ポリイソプレンゴム(IR)
- 4.クロロプレンゴム(CR)
- 5.アクリロニトリル・ブタジエンゴム(NBR)
- 6.ブチルゴム(IIR)
- 7.エチレンプロピレンゴム(EPDM)
- 8.フッ素ゴム(FKM・FEPM)
- 9.エピクロルヒドリンゴム(ECO)
- 10.アクリルゴム(ACM)
- 11.シリコンゴム(Q)
- 12.ウレタンゴム(AU・EU)

調査方法 弊社専門調査員による対象企業及び関連企業・団体などへの面接取材を基本とした情報収集による調査

調査期間 2011年4月～6月

資料タイトル : 「2011年 高機能エラストマー&コンパウンドのグローバル展開」

体 裁 : A4判 (262頁)

価 格 : 97,000円 (税込み101,850円)

書籍・電子版セット価格 : 117,000円(税込み122,850円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 ケミカル&マテリアルグループ

TEL 03-3664-5821 FAX 03-3661-9514

発行所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL 03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165

e-mail: info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

URL : <https://www.fuji-keizai.co.jp/>